



高崎経済大学地域科学研究所 第11回公開講演会

デジタル化と 日本のものづくり

21世紀の現在、「交換の経済学」（ヒックス）たる主流派経済学の発展成熟に比べ、「生産の経済学」に属する産業競争力論は現実の変化に追いつけていない。今回は、組織能力構築とアーキテクチャ進化を軸とする分析枠組を提示し、現在進行中のグローバル化とデジタル化の2大潮流を首尾一貫的に分析することを目指す。

デジタル化の時代も、ものづくり現場改善の重要性は変わらないが、これを企業の収益性や成長、地域経済の発展に結びつけるには、「強い現場」と「強い本社」の両立、特に明晰なアーキテクチャ戦略が不可欠である。付加価値の源泉は設計情報にある。生産を設計情報の転写、品質を転写の精度、生産性を転写の速度・密度として捉え、多層的に「良い設計の良い流れ」を作る企業戦略が必要だ。他方、アーキテクチャ（設計思想）の戦略を考え抜き、現場を生かすグローバル経営を行う、企業本社の戦略構築能力も、デジタル化の時代には必須である。

講師：藤本 隆宏 氏（東京大学大学院経済学研究科教授
東京大学ものづくり経営研究センター長）

日時：平成30年11月6日（火）
16時00分～17時30分

場所：高崎経済大学 図書館ホール
＊入場無料・事前予約不要

《講師プロフィール》 藤本 隆宏（ふじもと たかひろ）

1955年東京生まれ。1979年東京大学経済学部卒業、株式会社三菱総合研究所入社。1989年ハーバード大学ビジネススクール博士号取得（D.B.A.）。1990年東京大学経済学部助教授。1996-7年ハーバード大学ビジネススクール客員教授、1997年より同大学上級研究員、1998年より東京大学大学院経済学研究科教授。2004年より東京大学ものづくり経営研究センター長。2013年より一般社団法人ものづくり改善ネットワーク代表理事。

研究分野は技術・生産管理論、進化経済学。

《お問合せ先》 高崎経済大学地域科学研究所

（事務局 研究グループ研究支援チーム）

電話：027-344-6267

E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp